

記者提供資料
2025年(令和7年)9月2日
文化・スポーツ室歴史文化財担当 (担当:原口・稲原)
TEL:078-918-5629(内線:7545)

報道機関各位

## 明石型生船なませんに関する歴史・造船資料一式が「ふね遺産」に認定されました

令和7年5月19日にふね遺産審査委員会が開催され、明石型生船に関する歴史・造船資料一式が第9回のふね遺産認定案件として決定されました。

### 1 ふね遺産について

公益社団法人日本船舶海洋工学会が平成28年に開始した事業で、学術的・技術的に価値のある船舟類およびその関連設備を「ふね遺産」(Ship Heritage)として認定し、社会に周知し、文化的遺産として次世代に伝えるとともに、我が国における今後の船舶海洋技術の幅広い裾野を形成することを目的としています。第8回までに51件が認定されており、今回、明石型生船に関する歴史・造船資料一式を含む5件が新たに認定されることになりました。

#### 【過去の主な認定例】

認定案件	所有者
「日本丸」 機関搭載浮揚状態で現存する最古の日本建造練習帆船	横浜市 (帆船日本丸記念財団管理)
「川崎造船第1ドック」 難工事を克服した、日本人技術者による神戸港初のドライドック	川崎重工業(株)神戸工場
「市川造船所造船資料」 幕末から昭和にかけての造船技術の変遷を伝える図面、図書、工具類一式	伊勢市
「三重津海軍所跡」 幕末の我が国の造船事情を今に伝える遺構群	佐賀市(資産管理者)

日本船舶海洋工学会ウェブサイト <https://www.jasnaoe.or.jp/>より

### 2 明石型生船とは

明治38年、明石の活魚仲買商の中部幾次郎が考案した初めて石油発動機を搭載し、生簀を備えた運搬船です。船型は直立船首で大きなシアラインが特徴です。凌波性に優れ、荒天時でも運航可能でした。後に「明石型生船」と名付けられたこの船の登場で大量消費地の大阪への運搬時間が大幅に短縮されました。瀬戸内海を中心に建造され、わが国の造船業、発動機産業の発展にも寄与しました。

### 3 認定のポイント

これまで明石市では市民団体と協力して明石型生船に関する調査研究に取り組み、その成果を報告書として発行しています。今回認定されるのは下記の残存部品、模型、台帳を含む明石型生船の歴史・造船に関する資料です。現在、明石市立文化博物館の1階常設展示室に認定資料の一部を展示しています。

(展示資料)

- ・ 第拾壺盛漁丸の船名の銘板  
明石型生船の第拾壺盛漁丸の船体に取り付けられていた銘板
- ・ 第拾壺盛漁丸の木栓  
第拾壺盛漁丸の生簀の海水を調整するための木栓
- ・ 第八一住吉丸の模型  
明石型生船の第八一住吉丸 99 トンの模型
- ・ 船体台帳  
昭和 13 年頃の鮮魚運搬会社の船体台帳 ほか写真パネルなども展示

### 4 認定の経過と今後の予定

令和7年5月19日 ふね遺産審査委員会の開催

令和7年6月16日 日本船舶海洋工学会ホームページにて認定公表

令和7年9月24日 認定書授与式

令和7年10月14日より文化博物館2階ギャラリーにて認定を記念した新たな展示を予定  
(10月26日まで 詳細は別紙のとおり)

(参考)

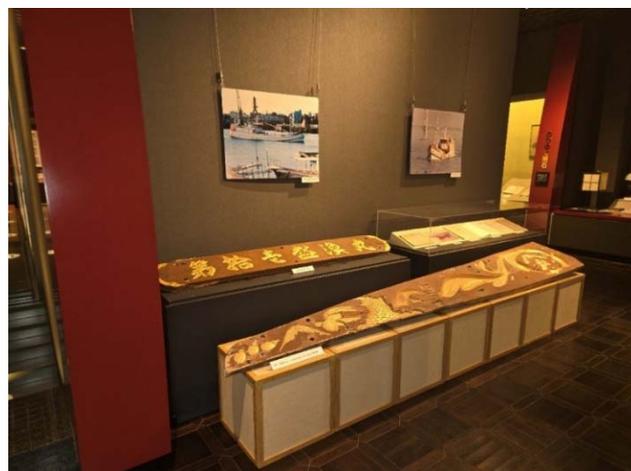
日本船舶海洋工学会 (第9回ふね遺産認定のお知らせ)

<https://www.jasnaoe.or.jp/enlightenment/funeisan/09.html>

### 5 明石市立文化博物館の展示



展示風景 (模型、写真など)



展示風景 (銘板、飾り板など)

## ふね遺産認定記念展「近代日本の技術革新—明石型生船」開催概要

- 1 タイトル ふね遺産認定記念展「近代日本の技術革新—明石型生船」
- 2 開催日時 2025年10月14日（火）～10月26日（日） ※月曜日は休館  
9：30～17：30（入館は17：00まで）
- 3 開催場所 明石市立文化博物館 2階ギャラリー展示室
- 4 観覧料 無料
- 5 開催体制 主催 明石市 協力 生船研究会
- 6 開催概要 明治38年、明石の活魚仲買商の中部幾次郎が考案した初めて石油発動機を搭載し、生簀を備えた運搬船は後に「明石型生船（なません）」と名付けられました。船型は直立船首で大きなシアラインが特徴です。凌波性に優れ、荒天時でも運航可能でした。この船の登場で大量消費地の大阪への漁獲物の運搬時間が大幅に短縮されました。瀬戸内海を中心に建造され、わが国の造船業、発動機産業の発展にも寄与しました。この明石型生船に関する歴史・造船資料一式が第9回のふね遺産認定案件として決定されたことを記念し、模型や写真で歴史とその価値を紹介します。
- 7 主な展示資料
  - (1) 明石型生船の古写真
  - (2) 明石の発動機産業
  - (3) 中部幾次郎の足跡
  - (4) 生船を使用していた水産会社の関連資料
- 8 関連行事（詳細は広報あかし10月1日号等でお知らせ）
  - (1) ギャラリートーク  
2025年10月25日（土） 午前9時30分～10時15分 ほか
  - (2) 企画展関連講演会  
2025年10月25日（土） 午前10時30分～正午 ※要申込み  
「明石型生船の価値」  
講師：出口 晶子 氏（甲南大学名誉教授）